

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第311回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

飯田橋駅は新宿駅まで中央総武線で約11分、東京駅まで中央総武線と中央線で約10分の位置にある。新宿駅と東京駅間の好立地だ。江戸城の外堀の中にある飯田橋は古くから栄え、今でも飲食店が多い。落ち着きと活気が並存する街だ。

飯田橋を歩いた際、黒色を基調とした保護柵の上にプランターが置かれた。ある道路を見つけた。車が普及する前からある商店街では、歩車分離や歩車共存が課題で、いろいろの工夫が繰り返されている(尾形珠緒 不)



小池 怜
不動産学部3年

歩車の分離と共存

動産の不思議第286回「19年6月4日号)。バリアフリーが課題の最近では、車道と歩道の段差を解消したタイプも増えている。一方で、車が暴走して歩道に乗り上げ、歩行者がけがをする事故も起きている。

道路の防護柵には、車両用防護柵と歩行者自転車用柵とがある。よく見る白色のガードレールは車両用防護柵の一種である。防護柵は車両の路外逸脱防止の役割と同時に、車道



手入れが不十分なプランターも

景観維持に植栽付き防護柵

と歩道を分ける境界線の役割もある。歩道と車道を明確に分けることは、命を守るためには非常に重要だ。

白いガードレールは事故防止や境界線を示す効力に優れる半面、街並みや景観の点で魅力に欠ける。写真では連続した白いガードレールではなく、ユニット型のパイプ製の防護柵を設置している。また、歩道の舗

装仕上げをインターロッキングにして車道と明確に区分し、防護柵が不連続なことを補っている。

この方法のメリットは第1に、軽快感とリズム感があり、歩行者や運転手に圧迫感を与えない。第2に、規則的に空いている箇所から自由に行き来でき、店舗に入店しやすい。第3に、歩道と車道を明確に認識できて、歩車の路外逸脱防止機能が働き、安晴らしい。一方で、小さなプランターは水やりを頻繁にするなど、細かな管理が不可欠だ。区と住民が連携し、一丸となって管理していくことが重要になっている。

【教員のコメント】
欧州の都市では花いっぱいプラランターを窓に飾る家が並んで街の賑わいや景観を出す。そこに住む喜びや地域への誇りを感じる。点が続いて線になり、線が続いて面になる。都市部の緑は点の集合体で形成されるが、原点は住民の意思にある。